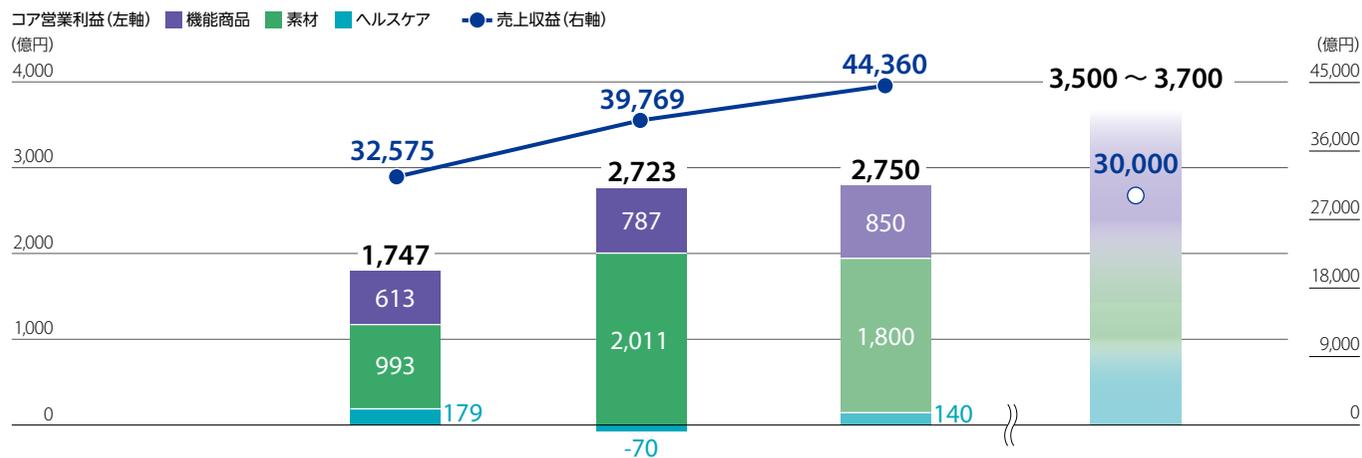


2021年度活動報告

過年度(2020年度以前)の業績数値は発表当時のものを使用しています

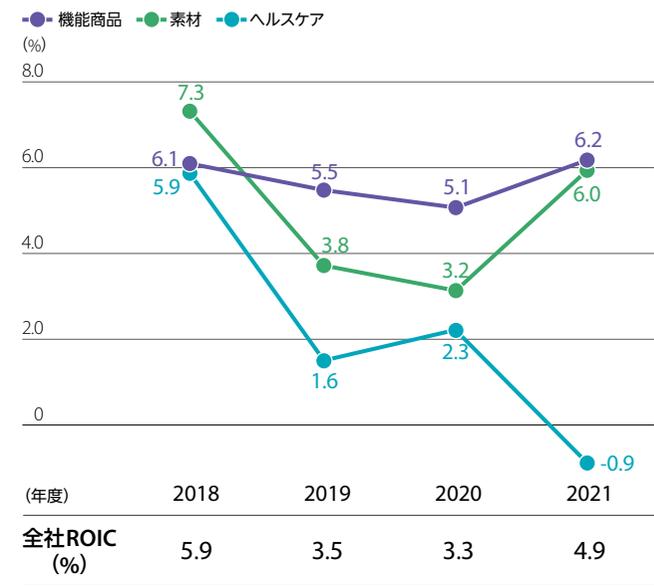
財務実績(MOE: Management of Economics)

売上収益とコア営業利益推移



| (年度) | 2020実績 | 2021実績 | 2022期初予想 | 2025目標 |
|---------------|--------|--------|----------|---------------|
| コア営業利益率 (%) | 5.4 | 6.8 | 6.2 | 11.0 ~ 13.0 |
| EBITDA (億円) | 4,056 | 5,024 | 5,180 | 5,400 ~ 5,600 |
| ROE (%) | -0.6 | 13.2 | 10.4 | ≥10.0 |
| ネットD/Eレシオ (倍) | 1.73 | 1.40 | 1.29 | 0.50 ~ 1.00 |

分野別ROIC推移



| (年度) | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 |
|------------|------|------|------|------|
| 全社ROIC (%) | 5.9 | 3.5 | 3.3 | 4.9 |

需要の回復、価格転嫁により増収増益を達成

2021年度の事業環境は、新型コロナウイルス感染症による影響から各国の経済活動に持ち直しの動きが見られる中で国内外の需要が回復基調に推移し、売上収益は過去最高となりました。

コア営業利益については、新型コロナウイルスワクチンの研

究開発費の増加に加え原燃料価格の上昇やサプライチェーンの混乱による影響を受けたものの、一部製品の市況上昇や、機能商品分野を中心に最重要戦略市場である自動車向けやエレクトロニクス向けなどの需要が順調に推移し販売数量が増加しました。また各事業において原燃料価格動向に応じた価格転

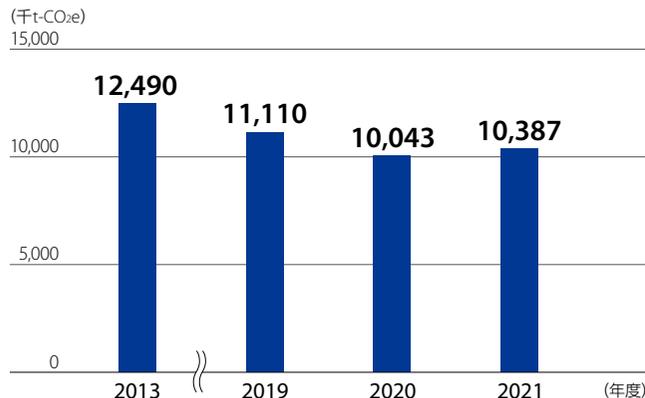
嫁による収益性確保に努めた結果、前年度比156%と大幅な増益となりました。

ネットD/Eレシオは、アルミナ繊維事業の売却などポートフォリオ改革を不断に進め0.33ポイント改善し、2021年度1.40となりました。

2021年度活動報告

サステナビリティ実績 (MOS: Management of Sustainability)

国内GHG排出量推移



GHG排出量の削減に向けて

三菱ケミカルグループは、2050年のカーボンニュートラル実現と2030年度までのGHG削減目標を2021年度に公表しました。国内では2030年度までの削減目標、42%削減(2013年度比)に対し、2021年度は16.8%削減しました。今後、カーボンニュートラルに向けたロードマップに沿って、燃料転換などの施策を推進していきます。

また、バリューチェーン全体のGHGなどの環境インパクトの削減を評価するために必要なLCA(ライフサイクル・アセスメント)の基盤を確立し、製品・サービス別の算定を進め、事業などへ算定対象の拡大を図っています(▶P.76)。

2021年度のトピックスと主な活動

